

資料 4

令和 8 年度取組事業の検討について（意見提出票取りまとめ結果）

（1）地域ネットワーク形成による健康づくり事業

現行事業を 5 地区持ち回りで実施中のため、基本的には事業継続予定

（次年度対象地区：神楽岡東地区） ※R8 で全 5 地区終了予定

【記入意見等】

- ・今年度、明治安田生命の協力により、3種類の健康チェック（血管年齢測定・ベジチェック・AGEs センサ(最終糖化物質測定)）を加えて好評だった。また、あさひかわ健康まつりで、日本生命でも似たような活動を行っているのを見たので、増やす価値があるのでは。
- ・全 5 地区終了後に検討でよい。
- ・事業継続でよい。内容はその都度検討できればよいと思う。

（2）緑が丘地域防災事業

【事業継続の可否】

継続した方がよい 12 名 継続しない方がよい 1 名

【事業内容】

現状どおりでよい 7 名 見直しした方がよい 6 名

【記入意見等】

- ・防災事業は、町内会員の結束・協力に結びつくため、5地区の市民委員会役職者を対象にしても、大きな効果が望まれる。
- ・今年度、“親子”的くくりを外したばかりなので、次年度も同じ内容で様子を見ては。
- ・様々な災害や被害について取り扱ってはどうか。
一度ではできないので、数年に渡って（アンケートなどで取り入れる）。
- ・防災事業は、毎年実施だと参加者を募る上で、学校、町内会を含め、既に計画実施しているところが多く、参加者が減少しているので、2年ごとの実施などを検討してもよいのでは。内容はどんどん良くなっていると思うので、現状どおりでよい。
防犯対策事業と交互にしてはどうか。
- ・議事録にもあったように、防災もよいが防犯として詐欺の防止もよいと思う。
- ・旭川では大きな災害があまりないため、地域住民のニーズにあわせて防犯についての事業への変更も一案だと考える。消防署と地域との連携という点でも、防災事業の現状どおりの継続には大きな意義はあると考える。
- ・「防犯」と「防災」がコラボした事業に見直ししては。
- ・親子で参加して、子ども達も喜んでいる姿を見ているので、継続してよいと思う。
- ・良い取組だと思うので継続した方がよい。細かい内容については、その時々で変更してもよいと思う。

(3) 5地区ふれあい交流事業

【事業継続の可否】

継続した方がよい 12名 継続しない方がよい 0名

【事業内容】

現状どおりでよい 6名 見直しした方がよい 6名

【年間計画の要否】

今までどおりでよい 4名 作成した方がよい 8名

【記入意見等】

- ・今年度は、口頭により年間スケジュールを決めたが、住民会員へは紙による周知が望ましい。子どもから高齢者までを対象にした企画を改めて考えたい。
- ・継続するのであれば、種目数や人数について要検討。
- ・他事業との兼ね合いから、日程調整が難しくなっていることもあるため、実施する種類の見直しや、(2)と併せて隔年実施などを検討してはいかがか。(2)、(3)と(5)①のスマホ相談会は多世代交流になるため、総合的に検討できるかと思う。
- ・時期的に6～8月は暑さ(酷暑)のため実施が難しいのでは。また、参加者が固定化傾向にあり、PRなど工夫が必要では。募集方法にも工夫が必要か。年間計画はあればよいが、他の様々な行事などにより難しいのでは。
- ・年間計画は必要。各市民委員会の担当者は参加者を集めると四苦八苦と思うので、早めの対応をお願いしたい。
- ・実施が5回もあるということで、実施を絞る必要があるか、年間計画を作成するか、という検討は実行委員の意見を尊重したいと思う。
- ・交流を目的とした「5地区ふれあい交流事業」の継続。事業内容及び実施回数については、令和8年度まち協新体制(新しい委員)で検討していただきたい。
- ・参加者にアンケートで事業内容を聞いて変更してもよいと思う。
- ・頻度は減らすことを考えてもよいかと思う(委員側や会場側の負担)。会から会の間の期間の交流を促す仕掛けができるか検討。例えば、(5)のスマホ相談会を本事業で取り上げ、その中で“健幸アプリ”的活用を勧め、地区ごとの参加者をグループ管理し、地区全体の合計歩数で5地区対抗とするなど。市の進める取組にも一致して取り組むことが望ましい。

(4) 緑が丘まち協広報誌発行事業

【事業継続の可否】

継続した方がよい 13名 継続しない方がよい 0名

【事業内容】

現状どおりでよい 13名 見直しした方がよい 2名
※発行部数・発行時期・配布範囲・掲載内容 各1名

【記入意見等】

- ・緑が丘地域の学校等の紹介が終わっていないため。
- ・次年度以降になるが、年度事業計画を掲載(追加)した春発行の方が、より地域の皆さんにまち協の役割や取り組んでいる事業などをお知らせできる。
- ・紙面の広報誌は、様々な人が地域の情報を得るのに適していると思うから。

(5) その他新規事業（既存事業と入替又は追加）

①「防犯対策に関する事業」及び「高齢者向けスマホ相談会」について

【記入意見等】 ◇防犯対策 ○スマホ相談会

◇○インターネットやスマートフォンにおける詐欺や防犯対策として、高齢者を対象とした相談会などを実施することで、地域防犯に寄与できるのではないかと考える。近年の詐欺はSNSや広告を含めてもかなり巧妙な手口のものが多いので、対象を若年層も含めて実施しても貢献できるのではないか。講義でもよいと思うが、スマートフォンの使い方や防犯のあり方について参加者同士が意見交流を行うという形の事業でも多世代交流が図れるのではないかと思う。

◇○実施に賛成 ※ふれあい事業を2～3にしても

◇○スマホ相談会を実施した際に、高齢者が聞きたいことがたくさんあることを把握できた。詐欺の勉強会などと併せて、実施の可能性があると思う。

◇○防犯対策、毎日のように新聞で交流サイト(SNS)、特殊詐欺事件の記事が絶えず、誰もが自分は大丈夫と思っていると大変な事になる。スマホ相談会も併せての事業を検討してみては。

◇防災・交通安全・防犯などは日ごろの研修や訓練なくして効果は薄い。

令和8年度から道路交通法も大きく変わるため、何らかの形で周知したい。

◇銀行や郵便局の方の協力もあるとよいと思う。

◇防犯対策に関する事業では、(2)でも述べた(防災→防犯への変更も一案)とおり、検討の余地があると考える。

◇防犯対策に関する事業～防災事業とコラボした事業で可能

○高齢者向けスマホ相談会は、市民生活部の研修でも意見が出ていた。中高生に操作や便利機能を学ぶことで、緑が丘まち協全体のIT化・デジタル化促進のきっかけになるような気がする。

○高齢者向けスマホ相談会のような、学生を講師として多世代交流を図る事業は多くないため、他の事業との兼ね合いが取れるのであれば、新規事業として計画することに賛成。

○高齢者向けスマホ相談会～予算上問題なければ、まち協新規事業に追加

※地区社協の事業としても取組可能

○高齢者と若者の交流が増えてよいと思う。また、高齢者が若者に何か教える会もあってよいと思う。

○スマホ相談会は良い案だと思う。せっかくなので、(3)の“ふれあい事業”と併せて、スマホを継続的に活用する機会を増やす取組とするのが望ましい。

②その他、緑が丘まち協として取組可能だと思う地域課題・解決に資する事業案等

【記入意見等】

- 町内会の加入率低下や役員の担い手不足（全域）

→住民各位の地域への関心度合いを評価する目的で、全戸配布予定の広報誌に併せてアンケートを配布するのはどうか。若い方の回答率向上を狙い、QRコードから読み取れるように。

- ここ10年は高齢化社会が続くが、それをポジティブに捉え、子ども・女性を巻き込んだ企画が望ましいと頭の中では考えているが、形にならない。

※回答者によって、未回答項目や複数回答等もあったため、項目によって人数が異なります。